

共同研究奨励金グループ活動報告

『戦後、とくにGHQ占領期における在日華僑、在日朝鮮人の生活空間を明らかにする—横浜市・神奈川県内の動きを中心に』

外国語学部 大里浩秋

本研究の2年目の研究は、1年目にスタートが遅れて研究会を十分に開けなかった反省を踏まえて、関連するテーマで可能な限り研究会を持って、お互いの問題関心を刺激しあって実のある共同研究に作り上げていくことを目指した。その結果、大きく2つのテーマに分け、1つは、1年目に続いてプランゲ文庫から関連する資料を探し、かつそれ以外の資料も探しつつ、戦後の在日華僑、在日朝鮮人についての各自の研究成果を報告する研究会、もう1つは、戦後の中国人日本留学の歴史を中心にして日中双方の留学の歴史をプランゲ文庫その他から調べてその成果を報告する研究会を並列して開くことにした。研究会への参加は、両方に参加する人あり、片方に参加する人ありで、いずれの研究会にも院生や外部の方の参加を呼びかけながら運営した。以下に2つの研究会(便宜上、「プランゲ文庫と東アジア」班と「留学生の歴史」班と呼ぶ)を開いた日時と報告者の名前と報告テーマを記す。

「プランゲ文庫と東アジア」班

- 1, 5月19日17時から、孫安石氏「上海発行の亜洲世紀について」
- 2, 6月21日16時半から、中村元哉氏(津田塾大学)「戦後中国のメディア空間の紹介」
村上衛氏(横浜国大)「グローバル・ヒストリーの中の中国経済史」
- 3, 10月20日16時から、尹健次氏「解放空間、南朝鮮と在日朝鮮人」
- 4, 12月15日16時から、菅沼若菜氏(中国言語文化修士課程)「戦後の華僑社会」
大里浩秋氏「プランゲ文庫中の華僑資料」

「留学生の歴史」班

- 1, 6月26日16時から、王雪萍氏(東京大学)「戦後留日学生・華僑の帰国と新中国の外交」
- 2, 10月1日18時から、周一川氏(日本大学)「『満洲国』における女性の日本留学—インタビュー調査の報告」
- 3, 12月4日15時から、見城悌治氏(千葉大学)「1920~30年代における中国留学生と日本見学旅行—彼らは何を見たか、彼らに何をみせようとしたか」
- 4, 2月5日15時から、田遠氏(中国言語文化修士課程)「戦後直後の中国人留学生の生活空間」

今後、「プランゲ文庫と東アジア」班はワークショップを2月28日に行い、3月初には数人でアメリカに出かけ、プランゲ文庫と米国国立公文書館の資料を参観する予定であり、「留学生の歴史」班は3月19日に研究会を開く予定である。